

ネット通販大手、アマゾンジャパンは昨年12月、東京都の葬儀関連会社「みんれび」が法事などに僧侶を定額で派遣するサービス「お坊さん便」の取り扱いを開始。これを受け全日本仏教会は、アマゾンジャパンと米アマゾン本社に「僧侶の宗教行為を定額の商品として販売することに大いなる疑問を感じる」と販売中止を要請し、「疑問と失望を禁じ得ない」などと斎藤明聖理事長の談話を発表していた。が、逆に「高額のお布施を要求された」「金額が不明瞭」などと批判メールが殺到、一転窮地に立たされた。地方などの寺が檀家離れに直面している現実もあり、この春、「僧侶としてのあり方を足下から見つめ直し、信頼と安心を回復していかなければなりません」と全日仏は各宗派の担当者らによる協議会を設置する方針を決め、対策に乗り出すことになった。当然である。

そもそも宗教は金が絡み、政治にも影響を及ぼすものであり、何を今さらと片腹痛い。おまけに、正月には神社に初詣に出かけ、夏には盆踊りをし、教会で結婚式を挙げ、ロツテが優勝したら“バレンタイン神社”が出来、お寺で葬式をする“無宗教”の日本人にコミットメントを要求するのは端から無理だ。彼らがこだわるのは“イベント”や形式であり神仏ではないからだ。

実は厄介なことに、この問題は教会を巡るクリスチャンとて同じである。いやいや献金をする信者や、よく内容をも分かっていない人に献金をさせる教会。一方で、キリストを信じているが教会には行かない人や、どここの教会にも属さずあちこちの教会イベントなどに顔を出すだけの“チャーチ・ショッパー”たち。しかし信仰とは、ずばり「信じること」であり、「愛すること」だ。それは、オタク少年がAKB48のCDを何十枚も買うのに似ている。愛しているから高額の出費も気にならない。したがって「キリストを信じる」とは、宗教やイベントや教理を云々することではなく、天から「神さま便」として来られ、我ら人類の罪を赦すために、まずご自身を投げ出し、我らに愛を示して下さったキリストを信じ、愛することなのである。そして、

**「わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところ遣わします。」**

**ヨハネの福音書16章7節、**

とイエスが語るように、彼が十字架にかかり、死んだ後よみがえり、天に帰った後、今度は、彼を信じる者には彼の元から「聖霊便」が無料で届く。その経験をした者は、「与えられる者」から惜みずに「与える者」へと生まれ変わることが出来るのだ。

2016-6-15

